

長崎北病院 伝言板 7月号

令和5年7月1日発行

7月。「文月(ふづき、ふみづき)」。七夕に詩歌を献じたりすることからという。風流。逆に品がない最近の雨。梅雨の雨は「シトシト」「ザーザー」の印象。気象庁によると「ザーザー」は1時間10~20mmのやや強い雨。最近はこれでは済まない。時間30mmではバケツをひっくり返したような雨、50mmでは滝のような雨。80mmでは息苦しくなるような雨とのこと。気をつけましょう!!



「置かれた場所で咲きなさい」

コロナの感染症法上の分類が5類となり規制が無くなりました。確かに感染者は少なくなりました。しかし、一番変わったのは人の心。頭の上を覆っていた閉塞感、圧迫感がなくなり開放感があふれてきました。移動や飲食の制限もなくなり、マスクは減り、パーティーなどの感染防止対策も姿を消しています。コロナは無くなった！訳ではありませんが、「以前に戻ったみたい」。その後、急増はしていませんが、感染状況や濃厚接触者を見ていると、ジワリと増えている印象です。指定された病院(定点)での患者数では5月は3~4人台でしたが6月12日から18日の週では5.14人と5人を超えています。長崎ではジワリですが、沖縄では激増し、すでに「医療崩壊」だそうです。定点あたり28人以上。検査せずに解熱剤処方だけの人も多いようで実際はさらに多いでしょう。何故いつも沖縄で多い?かを考えると私たちの対処法のヒントになるかもしれません。沖縄で多い理由として言われているのは ①人口密度が高い: 那覇市の人口密度は福岡や名古屋よりも高い。観光客が重なり過密さが増す。

②新型コロナは持ち込まれて拡大。観光客が多い春休み、夏休み、正月休みなど休暇期間に増える。③若者の多さ: 感染を拡げる役割は、少なからず若い世代。高齢人口は長崎の6割。若年者が多い④世代間交流・イベントが多い⑤冷房環境で締め切って生活する⑥ワクチン接種率の低さ: ワクチン接種率は秋田がトップ、沖縄がダントツ最下位。1-4回目、オミクロン株対応も全て最下位。4回目接種は29.6%で秋田県の62.0%の半分以下。特に65歳以下の接種率は驚くほど低率。これらから見えてくるのは密な状況で感染が広がる。三密を避けることはやはり有効。換気が必要なこともわかります。それとワクチン接種。高齢者は我が身を守る為にもワクチン接種が必要です。多くの方が接種します。しかし、若者は感染しても大したことはない、ワクチンの副反応はきつい。ならば打ちたくないという気持ちなるのはわかります。しかし、若年者に感染が広がると沖縄のような感染爆発の起点となります。高齢者や感染弱者に広がって医療崩壊を招きます。若年者のワクチン接種は自分の為はもちろんですが、今の自由な生活を継続する、社会生活の維持、に重要なことだと思います。



話変わって最近気になった言葉に「置かれた場所で咲きなさい」という言葉があります。ノートルダム清心学園理事長渡辺和子さんの著書の題名です。気になって買い求めました。この言葉の元は渡辺さんが若くして突然学長に任命された時、頑張っても誰も「挨拶してくれない」「ねぎらってくれない」「わかってくれない」と「くれない族」になっていた時1人の宣教師が渡してくれた英語の詩の冒頭の一行の日本語訳だそうです。これは仕方がないと諦めるという意味ではありません。自ら咲く努力を怠らない。しかし、辛い立場、不条理な仕打ち、雨の日もある。どうしても咲けない時は根を下に下に伸ばしましょう。やがて大きな花が咲きます。境遇は選べないかもしれないが生き方を選ぶことはできるのです。(A.S.)

